

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成24年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名	山口県	番号	18
-------	-----	----	----

推進地区名	下関市
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組の内容

1. 重点課題への取組状況

(1) 基礎学力・活用する力の定着について

子どもたちが確かな学力を身に付けるためには、その実態を正確に把握し、焦点を絞った指導の徹底を図ることが必要である。

そこで、本市においては、各種学力調査を計画的に実施するとともに、各学校において結果に基づいた学力向上プランの作成・活用を行っている。

具体的な取組としては、4月の全国学力・学習状況調査及び下関市学力調査（小学校5年生、中学校2年生対象）の結果から、市教育委員会が各学校の状況を把握するとともに、市の状況分析を行い、その分析結果とともに課題解決の方途等についての資料提供を各学校に行うことで、学力向上プランの作成を支援した。

また、12月には、やまぐち学習支援プログラム（山口県教育委員会作成、WEBから問題をダウンロードし利用できる）を活用した学力調査（小学校3～6年は「国語・算数」、中学校1、2年生は「国語・数学」）を実施し、1～2学期の子どもの変化と各学校の取組の評価を行うとともに、3学期に向けた学力向上プランの見直しを行った。

併せて、市内を5～6校程度のブロックに分け、学力向上推進連絡協議会を開催した。各学校における課題とそれに向けての手だてと成果について具体的な事例を紹介し合い意見交換をすることで、有効な手だてが広がるきっかけとなった。

(2) 授業改善について

すべての教員が共通の視点をもって授業づくりを行うことができるようハンドブック「下関スタンダード～授業の基礎・基本」を作成し、各学校に配付した。「子どもの実態を踏まえた授業」「かかわり合いのある授業」「見通しと振り返り（評価）のある授業」といった3つの視点を示すとともに、具体的な授業改善のヒントを提案することで、校内研修での積極的な活用を促している。

(3) 学びの習慣化と家庭学習の充実について

調査から、自ら学ぶ習慣に課題を抱える子どもたちの実態が明らかになってきた。そこで、今年度、大学関係者及び市立学校の教員を委員とする「下関市学力向上等推進委員会」を年3回開催し、本市の子どもたちの学力の現状と課題及び基礎学力の定着を目指した家庭学習を軸とした「学びの習慣化」を促す手だてについての協議を行った。

2. 調査研究の成果の把握・検証

本市の子どもたちの学力状況については、依然として課題はあるものの、平成22年度から平成24年度にかけて改善の傾向が見られる。

その要因として、次のようなものが成果として挙げられる。

(1) 学力向上プランを中心とした現状分析と評価システムの改善

- 学力向上プランの作成に当たっては、前年踏襲型のプランが多く見られたが、学力調査の結果を活用することで、より具体的な手だてを示すことができるようになってきた。
- 学力向上プランは年1回中間評価(1学期末)を行う学校がほとんどであったが、2学期末の評価を実施することで、よりきめ細やかな指導を行うことができるようになったきた。

(2) 授業改善を中核に据えた校内研修の実施

- 「下関スタンダード～授業の基礎・基本」により授業づくりの視点を明確にしたことで、視点が明確になった授業及び研修が実施されるようになってきた。併せて、ワークショップ方式の研修方法を取り入れることで、研修会の活性化を図ることができた。



- 「かかわり合いのある授業」を展開する中で、子どもたちの言語活動が活性化してきた。
- 指導主事をはじめ学力向上推進リーダー及び教員等の第三者が各学校を訪問し、授業や資料提供することで、授業改善に対する教員の意識が高くなった。

(3) 家庭学習の充実に向けた取組

- 全国学力・学習状況調査の結果から、本市では家庭において全く学習をしていない児童生徒の割合が山口県と比較して多いことがわかる。〔表1〕

〔表1〕家庭において全く学習をしない
子どもの割合 (%)

	平日		休日	
	小6	中3	小6	中3
山口県	2.4	5.4	8.5	11.7
下関市	3.2	7.8	11.0	15.1

- 「学習の計画を立てて学習しているか」「宿題をしているか」という問いについても、「している」という回答については、国や県と同等であるが、「していない」という回答については、多い傾向にある。下関市学力向上等推進委員会では、これらの課題をもとに、学びの習慣をつけるための手だてについて協議を行い、手だてや教師が心がけるべきことについて、共通理解事項をまとめることができた。

3. 今後の課題

- 基礎学力の定着のための手だてとして、全ての学校において、やまぐち学習支援プログラムが積極的に活用されるようになっている。結果の入力後、自校の課題を見つけ、子ども一人ひとりに沿った補充学習を行う学校も増えてきている。
- 学びの習慣が十分に身に付いていないという課題については、今後、学びの習慣化を促すための資料を作成して学校に配付するとともに、保護者への具体的なアプローチを検討していかなければならない。
- 「分かりやすい授業」が展開されるよう、市教育委員会として「下関スタンダード～授業の基礎・基本」の続編を作成する予定であるが、各学校で取り組まれているすばらしい先生方の知恵を共有できる工夫が求められている。
- 地域の教育力をいかした学習支援を積極的に進めていけるように、コミュニティ・スクールの仕組みを積極的に活用することが必要である。